

記載内容は変更されることがあります。

科目名	電気法規	英語科目名	Electrical regulations	
開講年度・学期	平成26年度・後期	対象学科・専攻・学年	電気情報工学科5年	
授業形態	講義	必修 or 選択	選択	
単位数	2単位	単位種類	学修単位 (15+30)h	
担当教員	稲葉雄一 (非常勤)	居室 (もしくは所属)	電気情報工学科	
電話	0285-22-2111	E-mail	Yuuichi_inaba@notes.takaoka.co.jp	
授業の達成目標	授業達成目標との対応			
	小山高専の教育方針	学習・教育目標 (JABEE)	JABEE 基準要件	
1. 電気事業の種類や電気事業法の目的について説明できること。 2. 電気工作物の種類や自主保安体制の4本柱について説明できること。 3. 電気事故報告せねばならない場合について説明できること。 4. 電圧の区分や接地工事について説明できること。 5. 電路の絶縁性を判定する方法や接近状態について説明できること。 6. 負荷率、需要率及び不平等率について説明できること。		④	A	d-1、g
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法				
1～3：中間試験の成績および自学自習に関する課題の解答内容で評価し、総合的に60%以上の成績で目標に到達したとみなす。 4～6：期末試験の成績および自学自習に関する課題の解答内容で評価し、総合的に60%以上の成績で目標に到達したとみなす。				
評価方法				
下記2項目の加重平均によって評価する。 1. 中間・期末試験 (80% ただし、中間試験と期末試験の得点配分は4:6とする) 2. 課題の解答内容 (20%)				
授業内容	授業内容に対する自学自習項目		自学自習時間	
1. 電気関係法規の体系及び必要性	電気に関する法律の必要性についてまとめ、次の授業日に提出する。		4	
2. 電気事業の種類と電気法規の変遷	電気事業の特質についてまとめ、次の授業日に提出する。		4	
3. 電気事業法の目的と事業規制	託送供給についてまとめ、次の授業日に提出する。		4	
4. 事業規制(続き)、計量法、電源三法	復習問題1を解答し、次の授業日に提出する。		4	
5. 電気保安の考え方、電気工作物の種類	電気の保安確保の考え方についてまとめ、次の授業日に提出する。		4	
6. 事業用電気工作物の保安体制	電気工作物の種類についてまとめ、次の授業日に提出する。		4	
7. 一般用電気工作物の保安体制	復習問題2の1～4を解答し、次の授業日に提出する。		4	
8. 後期中間試験	これまでの授業内容について復習する。		4	
9. 電気工作物の技術基準(用語の定義)	電圧に関する用語および電圧区分についてまとめ、次の授業日に提出する。		4	
10. 電気工作物の技術基準(絶縁・接地)	接地工事の目的と種類及び内容についてまとめ、次の授業日に提出する。		4	
11. 電気工作物の技術基準(保安装置)	電路の保安装置についてまとめ、次の授業日に提出する。		4	
12. 電気工作物の技術基準(電線路)	地中電線路の長所短所及び施行方法についてまとめ、次の授業日に提出する。		4	
13. 電気工作物の技術基準(電気使用場所)	復習問題3の1～6を解答し、次の授業日に提出する。		4	
14. 電気施設の管理と運用(負荷の特性)	復習問題6の3を解答し、次の授業日に提出する。		4	
15. 電気施設の管理と運用(系統の運用) (後期期末試験)	これまでの授業内容について復習する。		4	
			自学自習時間合計	60
キーワード	事業規制、保安規制、自主保安、電気主任技術者、技術基準、需給バランス、系統運用			
教科書	竹野正二「電気法規と電気施設管理」東京電機大学出版局			
参考書				
カリキュラム中の位置づけ				
前年度までの関連科目	電気機器工学			
現学年の関連科目	電力システム工学、高電圧工学			
次年度以降の関連科目				
連絡事項				
1. 授業方法は講義を中心とし、演習問題や課題を出して解答の提出を求めます。				

2. 問題や課題は必ず行い、電気技術者として必要な関連法規の大要を理解してほしい。
3. 試験時間は60分とし、教科書、配布資料、ノート、電卓の持込は不可とします。

シラバス作成年月日	平成 26 年 3 月 25 日
-----------	------------------